

策定年月	令和5年4月
見直し年月	

# 麦・大豆国産化プラン

産地名：羽床下南地区

（作成主体：綾川町地域農業再生協議会）

# 1. 麦・大豆生産の現状と課題及び課題解決に向けた取組方針

## 麦生産の現状と課題

- 需給のミスマッチ
- 年産毎の品質が不安定
- 連作障害による減収品質低下

## 課題解決に向けた取組み内容

- 需要が見込まれる麦種・品種の導入  
需要開拓、利用促進
- 排水対策の徹底、適期播種・適期収穫、土づくり等
- 水稲との二毛作、湛水処理の推進

## 課題解決の対応と今後の生産拡大に向けた方針

日本麺小麦の現行主要品種「さぬきの夢2009」は、うどんの食味評価は高いが、製麺適性が外麦「ASW」に及ばないため、外麦からの置き換えが進まない状況にある。今般、うどんの食味が良好で、「ASW」と同等の加工適性を持つ後継系統が開発選定され、実需者評価も良好であることから、今後新品種として登録し現行品種からの早期転換を進める。新品種導入によって「さぬきうどん」、「小豆島素麺」の外麦原料からの県産麦への転換により、生産拡大が行える環境を整える。

はだか麦については、実需側から二条大麦「はるか二条」への部分的な生産転換の要望があったことから、要望実現に向け、他産地で大規模試験栽培に取り組み、栽培技術の確立を図りつつ、部分的な転換を図り需給のミスマッチを解消すると把握している。

また、現行はだか麦品種の「イチバンボシ」については、倒伏による品質低下が問題となっていることから、倒伏に強く品質が安定する「ハルアカネ」の導入を実需者と協議しながらすすめ、品質と供給量の安定化を図る。

品質の安定化に向けて栽培基本技術の励行を実施、産地生産基盤パワーアップ事業等により、乾田対策プラウの新規導入、播種機や防除管理機、コンバイン等の能力増強を進め、乾田対策や適期作業を実現する。また、麦わら、稲わらの積極的なすき込み、堆肥施用や、苦土石灰等の施用による土づくりを推進する。

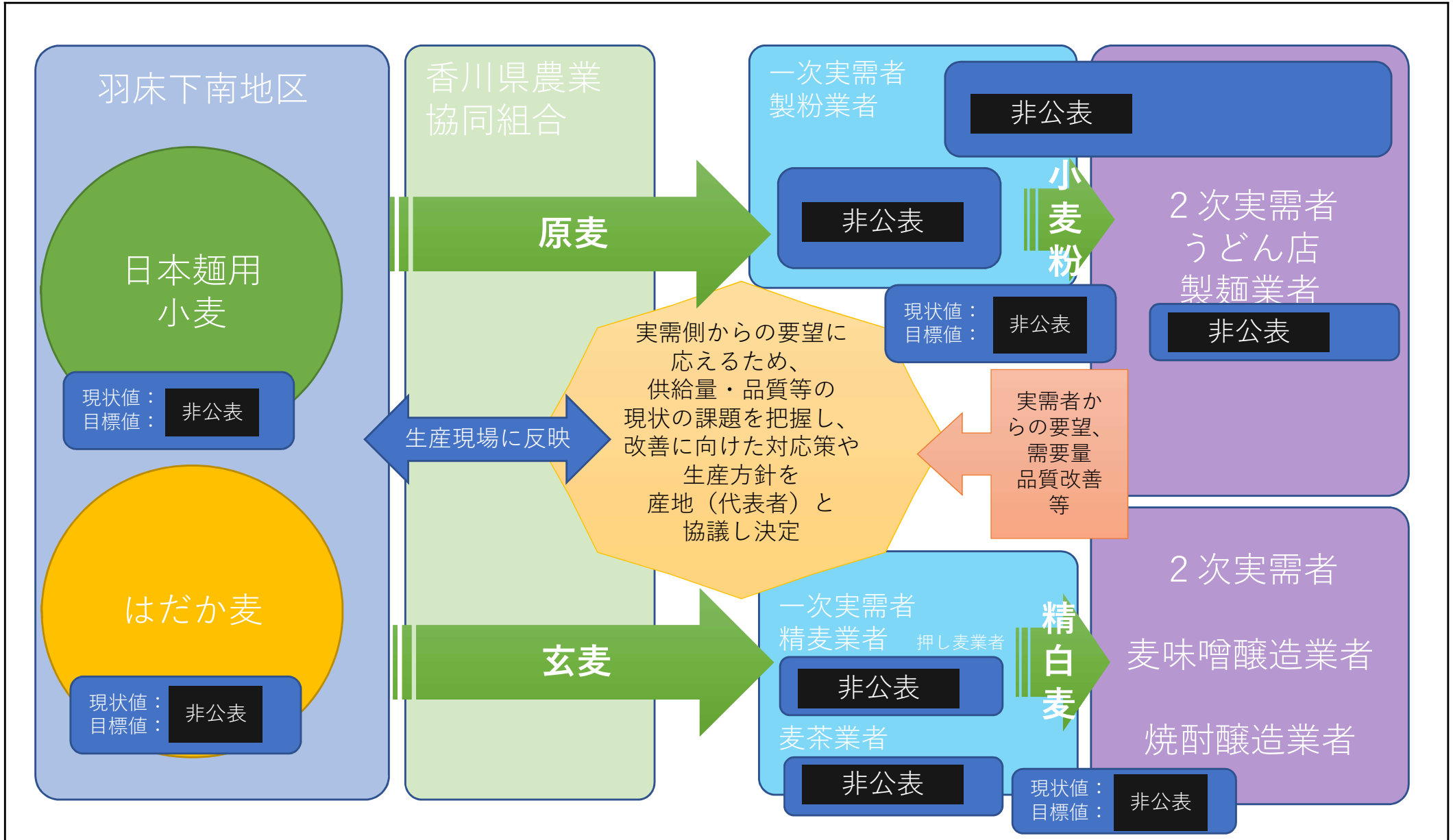
水稲との二毛作や湛水処理により連作障害を回避する。

また、団地化の推進に向け、人・農地プランや農地中間管理事業と連携し地域の話し合いを推進し、麦管理作業の効率化を図る。担い手による作付拡大が可能となるよう、実需者の求める麦類が生産されるよう連携を強化する。

※ 麦・大豆生産における課題(湿害対策、適期播種、土づくり、連作障害対策等の必要性等)を具体的に記載すること。

※ 課題解決に向けて取り組む内容及び今後の生産拡大に向けた方針を具体的に記載すること。

## 2. 産地と実需者との連携方針



※ 産地と実需者については具体的な名称を記載すること。

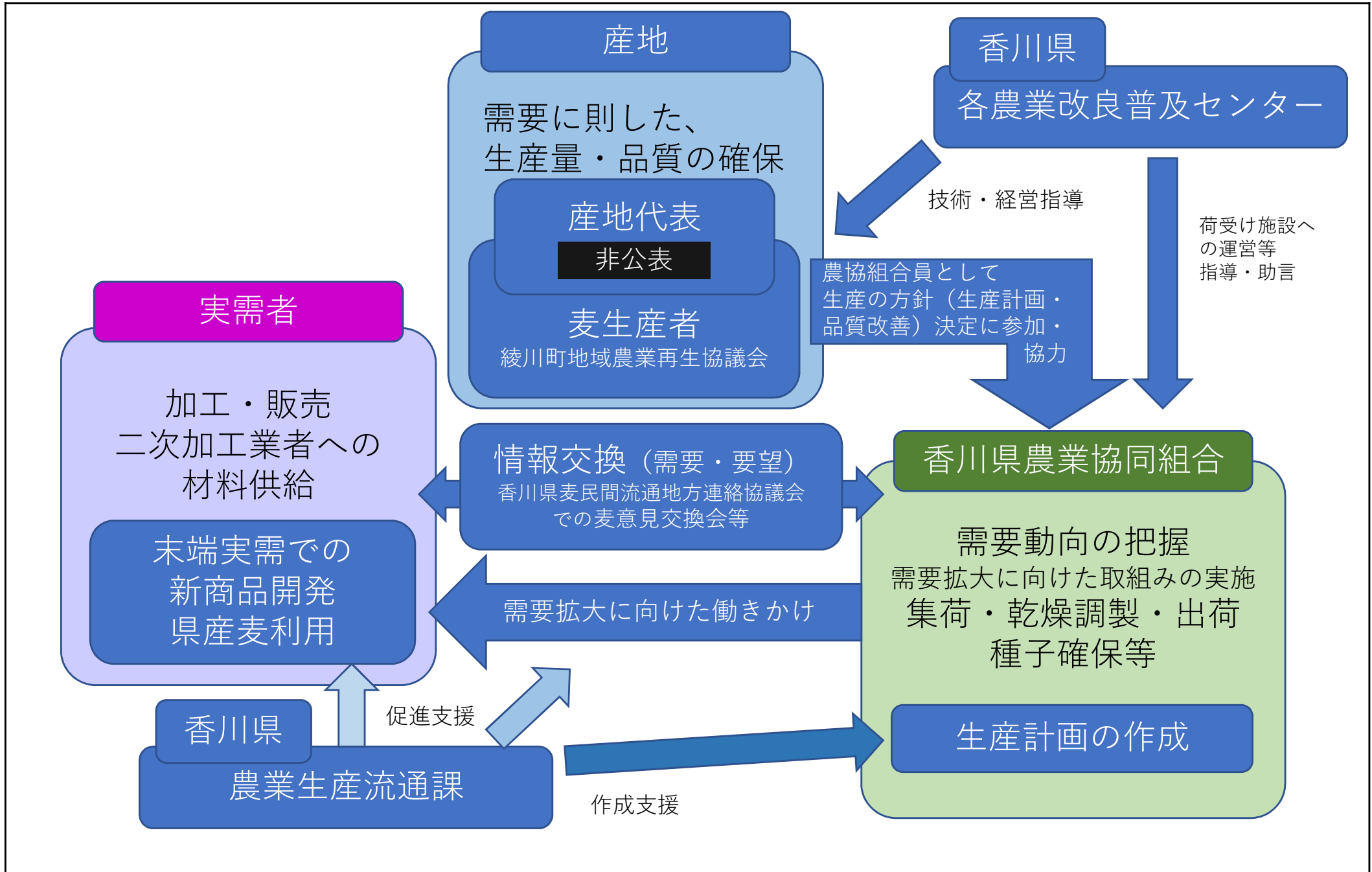
※ 麦の実需者は、麦を原料とした加工品等の製造を業とする者(製粉会社、製パン会社、製麺会社等)とする。

※ 大豆の実需者は、大豆を原料とした加工品等の製造を業とする者、大豆の販売を業とする者及びこれらの者が組織する法人その他の団体とする。

なお、販売を業とする者を実需者とする場合は、その者が販売する先(最終実需者)について、代表的な者の名称を記載すること。

※ 産地と実需者それぞれの国産麦・大豆取扱量の現状とおおむねの目標値を記載すること。

### 3. 麦・大豆の国産化に向けた推進体制及び各関係者の役割



※ 産地と実需者との連携について、図等を用いて明示すること。  
 ※ 取組の中心となる農業者等を必ず位置付けること。